

科目名	聴力検査 I			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15 回	時間数	30 時間	1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期
							ST2年 前期
【授業の目的・ねらい】 聴力（聴覚）検査は、言語聴覚士の業務の一つであると共に、対象者を理解し、援助する為の重要な情報源です。聴覚検査 I では、基本となる聴力（聴覚）検査の理論を方法を学習し、検査実施から結果の記録と病態予測ができることをねらいます。							
【実務者経験】 言語聴覚士として、大阪医科大学附属病院耳鼻咽喉科、健寿協同病院、中国補聴器センター、児童発達支援センター岡山かなりや学園、児童発達支援事業所ぐるぐるめろん島（めろんグループ）にて、成人と小児の聴覚障害分野及び小児の発達障害分野の検査と指導・療育に従事した。 現在は、岡山県更生相談所にて聴覚障害分野での検査・評価と、児童発達支援事業所アート・チャイルドケア SED スクール岡山豊成教室にて小児の発達障害分野での評価・療育に従事している。							
【授業全体の内容の概要】 「聴力検査」の授業は I と II（後期）がある為、この I では、基本となる自覚的聴力（聴覚）検査を重点的に行う。1年の「聴覚系の構造・機能・病態」や「耳鼻咽喉科学」の授業内容を復習しながら、検査手順の習得と、検査結果の理解を進める。 検査方法の習得については、授業内で小テストを行う（合計10回）。また、関連する国試の過去問題にも取り組む。							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 1. 自覚的聴覚検査の名称と検査機器が判る。 2. 自覚的聴覚検査を実施し、結果を記録できる。 3. 検査結果を読み取り、所見を書くことができる。							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	聴覚検査の概要と聴覚検査で用いられる「音の基礎知識」を得る。						教科書、配布資料
2	オージオメータの構成を知り、保守・点検・整備ができる。 小テスト1回目						教科書、配布資料
3	純音聴力検査の内、気導聴力検査ができる。 小テスト2回目						教科書、配布資料
4	純音聴力検査の内、骨導聴力検査ができる。 小テスト3回目						教科書、配布資料
5	純音聴力検査で、マスキングができる。 小テスト4回目						教科書、配布資料
6	症例に合わせ、純音聴力検査ができ、評価できる。 小テスト5回目						教科書、配布資料
7	自記オージオメトリーの内、連続周波数記録での検査ができ、Jerger分類ができる。						教科書、配布資料
8	自記オージオメータの内、固定周波数記録での検査ができ、補充現象と一過性閾値上昇の評価ができる。 小テスト6回目						教科書、配布資料
9	閾値上検査の内、バランス検査（A B L B 検査）ができ、補充現象の評価ができる。 小テスト7回目						教科書、配布資料
10	閾値上検査の内、DL検査、強さの弁別域検査を理解でき、S I S I 検査を実施することができ、補充現象の評価ができる。 小テスト8回目						教科書、配布資料
11	閾値上検査の内、MCL検査、UCL検査ができ、補充現象の評価ができる。 小テスト9回目						教科書、配布資料
12	語音聴力検査の内、語音了解閾値検査ができる。						教科書、配布資料
13	語音聴力検査の内、語音弁別検査ができる。						教科書、配布資料
14	症例に合わせ、語音聴力検査を実施でき、聴覚の評価もできる。 小テスト10回目						教科書、配布資料
15	国家試験過去問題の内、関連問題に正答できる。						教科書、配布資料
定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 聴覚検査の実際 改訂4版							
【準備学習・時間外学習】 演習を主体にする為、教科書を前もって音読しておくこと。							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 小テスト（10回実施）を50点、定期試験を50点として合計100点とする。 60点以上の場合に科目を認定する。							